

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102063		
法人名	株式会社まごころ福祉		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	奈良市朱雀6-6-8		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.pref.nara.jp/29166.htm
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4丁目4番33号
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

6人1ユニットなのと小規模なこと、民家を改装しているグループホームであることを生かして家庭的な雰囲気と手厚い介護を特色としています。利用者それぞれ自分でできることは自分で行って生活していただけるよう心がけ、職員が利用者とゆったり関わられる時間を多く取るよう努めています。天気の良い日には近所の散歩やドライブに出かける機会を持っています。食事は、個々の能力に応じて対応できるのも少人数ならではのだと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、民家を改装して運営されていることもあり、家庭的な雰囲気があります。リビングから見える庭には花や木が植えられており、花の植え替えや木々の剪定など園芸を楽しむことが出来ます。また、掃除が行き届いており、鏡やトイレ、リビングや居室など家屋内は清潔で気持ちの良い空間となっています。スタッフは入居者と寄り添いながらその人のペースに合わせて対応をされゆったりとした時が流れています。また、レクリエーションや体操などを入居者の方が楽しんで頂ける様にスタッフが考えたり、喜んで頂ける支援を検討されています。ご家族へも毎月写真付きの生活の様子他、受診した結果などの健康面の事も記載し分かり易くまとめられています。行き届いた環境、入居者、ご家族との関わり方から、入居者を第一に考えて取り組んでおられると感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示して、管理者及び他の職員が共有して実践できるようにしている。	玄関に理念を掲示しています。入居者個々の能力に応じた対応に心がけ、入居者の尊厳を意識しながら実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンやボランティアなど招き入れていたが、コロナ禍により現在中止している。	自治会に加入されています。自治会行事や活動は回覧で案内があります。現在、コロナ禍で中止されていますが、平時であれば、地域の喫茶サロンや合唱会に参加したり、フラダンスや傾聴のボランティアに来て頂いたり交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	リモートによる運営推進会議への参加を呼びかけ、当ホームの現在の様子や活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った内容を記録し、実践できるようにしている。	リモートで2か月に1回会議を行っています。地域包括担当者、民生委員、近隣のグループホーム、当ホーム代表と管理者の参加があり、活動報告や情報交換を行い運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスのことで分からないことがあれば、問い合わせるようにしている。	コロナ感染予防の看護師の指導に行政担当者の同行の受入れや、地域包括支援センターからの新規入所相談に対応されたり、行政機関と連絡をとりながら対応されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より虐待についての話し合いをしている。玄関の施錠も必要最低限にし、開放している。	入浴時に入居者のボディーチェックを行い、不可解な内出血などの外傷がないかチェック表を活用するなどし、業務の中でもスタッフへの意識付けがなされています。玄関も必要以上に施錠せず開放しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のサービスで高齢者虐待が無いかを話し合い実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、最新の権利擁護や成年後見制度について調べて、他の職員に伝えるよう努めているが、現状できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の前に、時間をかけて丁寧に説明し、ご理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していたが、コロナ禍により現在は撤去している。 ご家族の意見や要望は直接もしくはメール(LINE)で伺い、職員会議や運営推進会議で検討している。	ご家族と日頃からメールで連絡をしてご家族の意向や希望を確認しながらケアやホーム運営に反映するなどし活かしておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りなどで意見交換ができる機会を設けている。	日常の業務の中でスタッフのレクリエーションや創作活動、業務の事などの提案を聞きホーム運営に取り入れて対応をされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与の見直しを定期的に行っている。 管理者は個別の意見を伺っているが、面談は行っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表自ら現場に入り、サービスを提供するとともに、職員の介護能力について査定している。 また、会社負担による外部研修を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議などで他の事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族に、困りごとなどを直接聞くとともに、普段の行動・様子から思いを察することが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の不安を伺い、解決できるように努力し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	無理に入居を勧めず、適切な介護サービスが受けられるように情報を提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLを把握し、自分で出来ることはしてもらっている。 また、できないことは自尊心を傷付けないようにお手伝いさせていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所されたときは、感染症対策を行いできるだけ本人と関われるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所への散歩やドライブなどの支援などを行う。 また、友人や知人への年賀状・暑中見舞いのやりとりをしている。	コロナ禍で窓越し面会となっています。ご家族の他、知人の面会も可能です。また、コロナ禍で外出も控えておられますが、平時は希望により、ご家族の協力を得ながら美容院等の馴染みの場所への外出も可能で、関係性の継続に努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い入居者同士、隣同士になるように配慮している。 また、孤立しないように職員が間に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	メール(LINE)などで現在の状況や困っていることを伺うなど、退去後の関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族に不満や希望を聞いて、出来る範囲で対応できるように心掛けている。	ケアスタッフやケアマネジャーが日々の生活の様子や会話、ご家族からの意見、希望から意向を引き出し、その人のホーム内での暮らしが豊かになる様検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人にかかわっていた方からの情報を収集し、サービスの提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のチェック表を作成して、細かい変化に気づくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の思いや困りごと、ご家族の意向、これまでの介護状況、ケアのあたる職員の意見を鑑みて計画を作成している。	6か月に1回、見直しと計画書作成がなされています。既往歴や服薬情報、介護内容等が記載され、入居者家族やスタッフがその方の全体像が把握しやすいように工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノートや業務日誌にサービスの内容や気付いたことを記録し、職員会議などで検討して状況の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアや近隣の支援などを活用していたが、コロナ禍により現在休止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、地域サロンやイベントへの参加を積極的に行っていたが、現在はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診を受ける。入居前に特定の主治医がいらっしゃる方には、入居後も通院が可能。 また、訪問歯科や、皮膚科の往診も行っている。	週2回協力医療機関からの往診があります。また、月1回の訪問歯科と必要に応じての皮膚科の往診があります。また、元々のかかりつけ医への通院も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師がいないので、医療保険での訪問看護を利用することができるよう契約している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院と連携して、入院時は情報の共有、退院時は再発防止のための情報を提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における方針を明確にし、家族に交付して同意を得ている。 主治医や医療機関と連携して情報の共有をしている。	入居時に重度化や終末期の対応についてご家族への説明をされています。医療的な対応が必要な場合などその方の状態により難しい場合がありますが、ホームで対応出来る範囲であれば、ホーム内での看取りは可能です。状況によりかかりつけ医、ご家族と相談しながら支援をされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における研修を行う。また緊急時のマニュアルを作成して確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員が円滑に避難できるよう訓練している。	年2回、入居者の方も参加する避難訓練を行っています。コロナ以前は消防の立会の訓練もしていました。また、地域の防災訓練に参加するなど、地域住民との協力関係を築ける様関わっておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーを傷付けないように配慮し、丁寧な声掛けを心掛けている。	苗字で入居者の方をお呼びしていますが、時に、ご家族の意見でご本人がより安心出来る様な呼び方に配慮しています。また、トイレ等では他の入居者の方に気づかれぬ様なさり気ない言葉かけをしたり、人格を尊重した対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、思いを聞いたり、自分でできることをしてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は概ね決まっているが、強要せず個々の時間を大切にしている。 自分で決定できない入居者には、職員が決定してしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ自分で衣服など決めていただくようにしている。 衣類の購入に関しては、家族に依頼したり、ホームで調達などしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて提供している。 配下膳やテーブル拭きなどできる方には手伝って頂く。	テーブル拭きや下膳を入居者の方と行っています。また、おやつ作りを一緒にしながら楽しむ工夫をされています。コロナ以前は、近隣の飲食店(お寿司やうどん等)への外食や、年に1回ご家族も参加した外食や年2回お弁当を手配した交流会もされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが保たれるよう工夫し、食事・水分量はチェックシートに記入している。 また、主治医に意見を求めることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個別に口腔ケアを行う。 歯科衛生士による指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりのペースを把握して本人のペースまたは定期的なトイレ誘導を行う。夜間はリハビリパンツを使用しているが、自尊心を傷付けないように心掛けている。	紙おむつ・紙パンツの使用は簡単ですが、自分はそのままで低下していないと思われている方への自尊心に配慮し、おむつに頼らないケアを心掛け、極力布パンツを使用し定期的に排せつの支援をしておられます。紙パンツなど汚れたものは新聞紙に包み屋外へ出すなど臭い等にも配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関する記録をつけて把握している。便秘気味の方には、食事を工夫して乳製品や食物繊維の多い食材を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間はある程度決まっているが、強要せず拒否される方には時間の変更やシャワー浴や清拭などで対応している。	基本的にお一人週2回の入浴ですが、気分等により日や時間を変えたりするなど配慮されています。また、一人ずつお湯の入れ替えとマットを交換するなど快適に入浴出来る様配慮されています。その他、入浴剤や季節に合わせてゆず湯など楽しむ工夫もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	普段は、日中リビングで活動していただくようにしている。希望される方は、居室で過ごされる。夜は安心して就寝していただけるよう声掛けや誘導を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬漏れが無いようにチェックシートを記入し全職員が把握できるようにしている。薬の効能や副作用については日ごろから話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとにイベントや誕生日会など行う。また、個々の能力に応じて家事を手伝っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなどホーム外での支援をしている。外出が困難な入居者には、日光浴や庭の草花を見て楽しんでいただく。	日常的に散歩に出かけたり、敷地内の庭の手入れをスタッフと一緒にするなど、日常的に屋外で過ごす機会が多くあります。コロナ以前は、ドライブやご家族も参加される外食会を企画されるなど外出機会を作りながら支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を自己管理されている方はいませんが、希望があれば多額の金額でなければ対応できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用を希望される方は許可している。 また、ご家族には定期的に連絡を入れていただけるようお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は、必要に応じて冷暖房をかけて快適に過ごせるようにしている。 また、庭に季節の植物を植えて見た目にもきれいにしている。	共有空間は南側の大きな窓から庭が見えます。また、自然光が入り明るい間取りです。元々民家を改装していることもあり家庭的な雰囲気があります。入居者個々に居心地の良い場所があり、イスやテーブル配置に工夫しておられます。また、汚れた物は屋外に処理したり、掃除を小まめにされており気持ちの良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭や玄関にはベンチ、リビングにソファを設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が入居前から使用していた家具や、思い出の写真等を置いていただけるようにしている。	ベッドや空調は備え付けてあります。また、ダンスもありますが、馴染みのダンスや趣味の道具などの持ち込みも可能です。それぞれの入居者に合わせ、ソファやテレビ、本棚などが置かれ、居心地の良い空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家を改装して使用しているためある程度段差があるが、ADLを維持するために良い面もある。 また、廊下には危険を防止するための手すりを多めに設置している。		